

銀行における 意思決定支援システム (会話型情報検索表示システム)

銀行のコンピュータ・システムは、その対象業務により、(1)窓口業務処理オンライン・システム、(2)他行接続ネットワーク・システム、(3)管理計画業務支援システム、の三つに分けられる。

最近では、コンピュータ・システム建設の重点は前記の(1)から(3)に移りつつある。

ここでは、その中で銀行管理者の管理計画業務を支援する基本システムとして、会話型情報検索表示システムCIRD (Conversational Information Retrieval & Display System)を紹介する。

本システムは、管理計画画面で使用する業績計数、目標値や各種属性情報をもとにしたデータベース・システムと、コンピュータ機器に関する知識の乏しい管理計画業務の担当者が簡単に利用できるH-9415ディスプレイ端末を用いた会話型情報表示システムから構成されている。

また本システムでは、情報提供方式(データ加工規則、編集形式など)をメニュー項目としてあらかじめ登録しておき、利用者がこの項目の選択、使用データの指定をCRTガイダンスに従って入力するだけで、任意の情報をリアルタイムに画面出力する「メニュー方式」を基調としている。

本システムには、次の五つの機能がある。

(1) 管理計画支援情報の提供

(a)科目間の業績比較、(b)時系列業績比較、(c)部門別業績(又は営業店別業績)の比較、(d)予測などを、棒グラフ、構成比グラフ、スキュアリング、田型表など見やすいフォーマットに編集出力する。

(2) データベース管理

汎用データベース・マネジメント・システムPDM (Practical Data Manager)を用いて、オンラインによるデータ検索及びバッチ処理によるデータ更新ができる。



(3) 機密保護

機密保護プライオリティの設定で、(a)システムの利用可否、(b)データ単位の参照可否を操作者ごとにチェックできる。

(4) 会話誘導

操作者に、計算機システムに対する知識がなくても、CRTディスプレイからの質問に答えていけば、必要とする情報を画面表示できる。

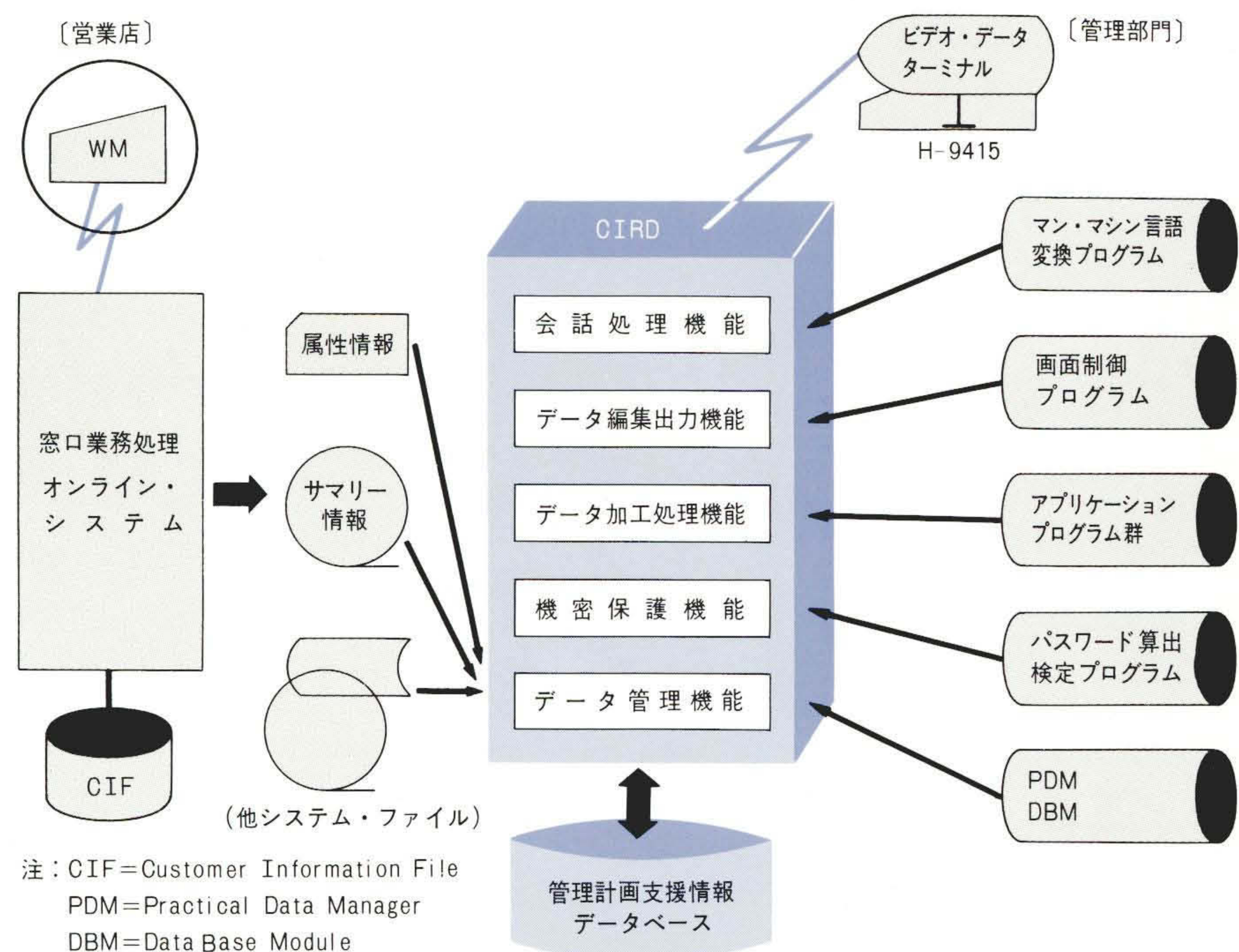
(5) システム管理者用機能

更に、システム運用統計(利用動向分析)、端末利用状態表示、サービス終了事前予告など、システム管理者用の機能を設けてある。

(6) 補助的機能

またシステムの利用を簡便にするため、(a)システム操作ガイダンス、(b)ガイダンス情報の画面間転送、(c)会話の後もどり、省略、(d)ページング処理、(e)データの単位自動編集などを実現している。

なお、本システムでは、各銀行独自でデータ加工の高度化が図れるようになっており、本システムの導入によって、今後、管理計画業務の省力化、正確化、迅速化、及び精緻化の効果は大きく、データベースの拡充及び適用業務の拡張が期待されている。



CIRDシステムの処理概要